

飲酒運転で反応が遅れ、ボールをはねる体験者  
 =豊見城市名嘉地・壺川自動車学校



しましま  
 ネット

## 酔って運転 危険体感

### 注意散漫 反応に遅れ

#### FMとよみ職員 自校コース試走

【豊見城】飲酒運転の危険を体感し、伝えようと、コミュニティ放送局FMとよみのパーソナリティーらが15日、実際に酒を飲み自動車学校の教習コースで運転を体験。気分が大きくなって注意が散漫になったり、ブレーキを踏むのが遅れることなどを体で学んだ。飲酒運転中の車内で録音もし、放送で随時流したり、体験談を語ることで飲酒運転根絶を訴える。

豊見城署と近くの壺川自動車学校が協力。飲酒した体験者が運転し、助手席に座った自動車学校教官がブレーキを踏めるよう構えながら、車庫入れ、S字カーブの通行、急ブレーキを体験した。

泡盛をロックで4杯、ビール350ミリ缶1本を飲んで運転した安慶名雅明社長(51)は「テンションが高いから、車を縁石に乗り上げても気にしなくなった。人をひいても大したことないという意識になってしまわず」と心境の豹変(ひょうへん)ぶりに驚いたように話した。

止まった車の陰から路上にビーチボールを転がし、急ブレーキをかける実験では、10人ほどの体験者全員の反応が

遅れ、ボールをはねた。アナウンサーの平田千春さん(33)は「自分ではボールに当たってないと思った。予想以上に運転が荒くなっていった」と振り返った。

同社のパーソナリティーは、県警の交通安全アドバイザーに委嘱されている。